

4 論理的でわかりやすい文を書く

◎ 4・1. 接続語を使って文をつなぐ

接続語とは、「つなぎ言葉」です。

単語と単語、語句と語句、文と文、段落と段落などをつなぐ言葉です。これによって、前後の関係が明らかになり、読み手に伝わりやすい文章になります。

例①…今日はとても寒い。

だから、暖房を入れよう。

例②…今日はとても寒い。

しかし、暖房を入れない。

2つの例文の接続語である「だから」と「しかし」の後に注目してください。接続語を読めば、「暖房を」の後に「入れよう」なのか「入れない」なのか、予測が付きます。

このように、接続語を適切に使うと、読み手は予測しながら読めるので、内容がすんなりと頭に入ってくるのです。

逆に言えば、接続語の使い方間違えると、まったく筋道の通らない文章になってしまいます。

例③…今日はとても寒い。

だから、暖房を入れない。……x

「だから」という接続語は、前に原因・理由、後が結果・結論を示すものです。寒ければ、暖房を入れるのが順当な考え方です。

そこで、「今日はとても寒い。だから」を見た時点で、読み手は「暖房を入れる」と続くことを予測します。ですから、例①は論理的でわかりやすい文章なのです。

しかし例③の場合は、「だから」の後に「暖房を入れない」と続くので、読み手の予測に反します。つまり、「だから」の使い方を誤っているため、筋道が通らないのです。

だから、例③は論理的ではない、わかりにくい文章です。

接続語は使い方を間違えると、たちまち意味不明な文章になります。

もう一歩上へ

例③にも「暖房に頼らずに寒さに強い体を作りたいから」という理由が補足されたらどうでしょう。「寒いから暖房を入れない」こともそれなりに筋が通ります。

このように、あえて読み手の予測を超えた書き方で「え！？どいうこと？」「と思わせておいてから、「ああ、そういうことになるほど！」と納得させることも可能です。

これは高等テクニクですが、失敗するとまったく意味不明な文章になる危険もあります。これができたからといって加点されるわけではないので、得点化される入試の作文・小論文ではあまりおすすめはできません。